

はじめに

落ち着いたあるロビーの、座り心地がよいソファーにもたれて、自動演奏のグランドピアノの曲を聴きながら、明るく開放的な庭園を眺めている人たち。

笑顔で親切なフロントのスタッフたちと、トイレの入り口にさりげなく飾られた生け花。

玄関から2階のロビーに上がるエスカレータの両脇の花壇と、ロビーの天窓から柔らかく陽光が差し込む喫茶コーナーでくつろぐ人たち。

これらの施設はホテルではありません。病院なのです。

病院のルーツは中世の修道院の救護活動に遡り、聖地を目指した巡礼者に宿泊を提供し、看護を行なった修道院をホスピスといい、後に機能が分化して、ホテルとホスピタルに至ったといわれています。

客をもてなすホテルと、患者さんを癒し治療する病院は、機能は異なりますが共通する点もあります。

私たち「癒しのトイレ研究会」は、清潔で使いやすく、安心して使える快適なトイレを「癒しのトイレ」と表現し、病院のトイレを「癒し」の視点から見直すことで、施設全体が見直され、患者さんに優しく質の高い病院に変身して欲しいとの思いで、病院トイレ改善の啓蒙活動を行なっています。

2002年からトイレを中心に病院を取材し、毎年冊子を発行してきました。

今回の冊子でご紹介した病院は、トイレや病室のモデルルームを製作してシミュレーションを行なうなど、完成までにさまざまな試みがされました。いずれの病院も患者さんへの思いが、病院のスタッフと設計者のコラボレーションによって、トイレを含めた施設や運営に反映されています。

癒しのトイレづくりを心がけている病院は、トイレ以外の施設や運営にも、患者さんへの配慮が行き届いている感が、取材を通して年々強くなってきました。

この冊子が、病院トイレの改善や、病院建設などのご参考になれば幸いです。

癒しのトイレ研究会事務局
高嶋弘明

